

泉千勢先生送別の辞

著者	黒田 研二
引用	社会問題研究. 2009, 58
URL	http://hdl.handle.net/10466/11206

泉 千勢先生 送別の辞

人間社会学部長 黒 田 研 二

2009年春、定年より1年早く退任される泉千勢教授に送別の辞を述べることになった。

泉先生は、1969年3月に大阪教育大学教育学部をご卒業後、大阪教育大学大学院教育学研究科に進まれた。そして研究科修了後、1972年1月、大阪社会事業短期大学に保育専攻助手として就任された。大阪社会事業短期大学は、その後1981年4月に、大阪府立大学社会福祉学部となり、泉先生は、講師として大阪府立大学に異動。1987年には大阪市内にあった夕陽丘の学舎から中百舌鳥キャンパスに学舎が移転する。泉先生は1992年10月に助教授に昇任され、1999年4月には、教授に就任されている。大阪府立大学は、2005年4月、府立三大学統合により公立大学法人大阪府立大学となり、泉先生は人間社会学部・社会福祉学科の教授となられた。

大阪社会事業短期大学就任から数えると、泉先生は37年の長きに渡り大阪府大学の教員を務めてこられた。この間、大阪社大から府大社会福祉学部、社会福祉学部から人間社会学部というように、2回の大きな組織改革の時期を経験された。こうした大学の歴史を、身をもって体験されてきた教員に退職されるのは、部局としてまことに残念なことである。良き伝統を引き継いでいくために、泉先生には、名誉教授として今後も府立大学の社会福祉教育を見守っていただきたいと願っている。

泉先生は、乳幼児の発達心理学的研究から、研究活動を始められた。教員に就任された昭和40年代の日本には、保育学分野で研究者養成をしている大学は数少なく、就任直後に、泉先生は、将来「保育原理」を担当できるように、との要請を受けたという。以来、「発達心理学」と「保育学」の2つの領域で、研究と教育を展開してこられた。

乳幼児の発達心理学の領域では、ロシア語文献の翻訳著によって、ヴィゴツキ学派の研究者としての名声を博しておられる。また、1988年スウェーデン・イエテボリ大学に留学された後、スウェーデンの保育・教育関係の論文・著書を多数著してこられた。教育面では、その人柄と豊かな学識によって、多くの学生・院生に慕われている。

こうした教育研究業績を背景に、泉先生は、日本保育学会の理事・常任理事（2003～2006年）、世界幼児教育保育機構（OMEP）日本委員会理事・会長（2005～2007年）などの要職を務められた。

大学運営への貢献という点では、まず、スウェーデン留学をきっかけに、スウェーデンとの学術交流に力を注がれ、国際交流委員会委員として、大阪府立大学とイエテボリ大学との学部間協定（1992年）、大学間協定（2002年）の締結に向けて尽力された。

さらに、大学法人への移行準備期には、学長補佐を2年間（2001～2003年）務められた。また、自己評価制度委員会など各種全学委員会委員としても活躍された。公立大学法人大阪府立大学への移行後は、学科副主任、学部入試委員、社会福祉学部記念誌編纂委員長なども務められ、新しくできた学科の運営に多大な貢献をされた。

さらに、学外では大阪府・大阪市・堺市・高槻市・吹田市・大阪狭山市等の審議会委員を数多く務め、社会的貢献にも尽くしてこられた。

いつだったか社会福祉学部教員の歓送迎会の席で、泉先生が大阪社会事業短期大学校歌を披露して歌ってくれたことを、いま、思い出している。当時の歴史を体験されている泉先生ならではの、である。小野十三郎作詞、芥川也寸志作曲。この校歌は、社会福祉学舎（A4棟）入り口ホールのショーケースの中に収められている。泉先生送別の日に、もう一度、この校歌を思い出したい。

ゆく雲は 白くかがやき
木もれ陽の たゆとうところ
そびえたつ わが学び舎
映えわたる 巷（まち）をのぞみて
われらいま 世界をおもう
大いなる目ざめの時よ、呼ぶ声よ
あいよりて 誓いは固し
しあわせをすべてのひとと
ああ 大阪社大 未来の力

2009年2月12日